

今月の御教え

人の悪いことを、よう言う者がある。そこにもしおつたら、なるたけ逃げよ。陰で人を助けよ。

……金光教祖御理解 第七十七節……

解説

この御理解は、先の御理解第七十六節で「人間は人を助けるのが有り難いと心得て信心せよ」とありますが、その『人を助ける為』の簡易な実践例を具体例に示された御教えであります。

例えば人が数人集まって話すときに、そこに居ない誰か、例えば「Aさん」を悪しざまに諍る話になった時、あなたが黙っていれば、その悪口を言っている人は、あなたに自分の言動が非難されているように受取るでしょうし、と言って、仕方なく、付き合いに相槌などを打てば、そこにいない「Aさん」を貶めることになります。そこで、そのような事態に至った時は、「ちよつと失礼します」とそつとその場を抜け出すようにすれば、双方を助けることになるし、自分も余計な罪を作らなくてもよいことになるとの思召しであります。

「例え心で殺す事でも神様が見ておられるので罪になる」と仰られる教祖金光大神様にしての思いと罪を重ねない方法を示された御理解であります。